

開館40周年記念

いわさきちひろ展

—中谷泰を師として



① いわさきちひろ 《赤い帽子の男の子》 1971年 ちひろ美術館蔵

2022年

7月16日（土）—8月28日（日）

三重県立美術館
Mie Prefectural Art Museum

—やさしい、まなざし—

にじんだ色彩で描かれた子どもたちや花々のすがた。いわさきちひろが描く明るく、甘く、やわらかな絵画世界は、国や世代、性別などあらゆるものを越えてひろく愛され続けています。

ちひろが絵本画家として歩み始める以前のこと。いわば模索期にあたる 1940 年代前半に、ある画家との出会いがありました。その名は、中谷泰（なかたに たい）。ちひろは中谷の作品に感化され、中谷のもとで油彩画の指導を受けました。戦争により彼らの芸術活動は中断を余儀なくされますが、戦後、いわさきちひろは童画家として、中谷泰は洋画家として、活躍の幅を広げていきました。

厳密に言えば、ふたりの師弟関係はわずか 1～2 年ほどの期間でしたが、その交流は生涯を通じて続きました。愛すべきものに向けるまなざしのやさしさは、表現するジャンルは異なるものの、彼らふたりのどの作品にもあふれています。本展では、これまであまり知られてこなかったふたりの交流を、いわさきちひろの絵本の原画や油彩画、素描等約 110 点、中谷泰の油彩画・素描等約 40 点、関連資料約 20 点によりご紹介します。

展覧会概要

会期：2022 年 7 月 16 日 [土] —8 月 28 日 [日]

開館時間：午前 9 時 30 分—午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休館日：毎週月曜日（ただし 7 月 18 日は開館）、7 月 19 日 [火]

主催：三重県立美術館 ちひろ美術館 中日新聞社

助成：公益財団法人岡田文化財団 公益財団法人三重県立美術館協力会

協賛：井村屋グループ 岡三証券株式会社 株式会社三十三銀行

中部電力パワーグリッド株式会社 日本トランスシティ株式会社 株式会社百五銀行

三重交通グループホールディングス株式会社 有限会社和田金

桑名三重信用金庫／北伊勢上野信用金庫／津信用金庫／紀北信用金庫

協力：近畿日本鉄道株式会社

観覧料 一般 1,000 (800) 円 学生 800 (600) 円 高校生以下無料

- ・（ ）内は前売および 20 名以上の団体割引料金
- ・この料金で、2 階常設展示室「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。
- ・生徒、学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
- ・障害者手帳等（アプリ含む）をお持ちの方および付き添いの方 1 名は観覧無料。
- ・教育活動の一環として県内学校（小・中・高・特支）および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料（要申請）。
- ・毎月第 3 日曜の「家庭の日」（7 月 17 日、8 月 21 日）は団体割引料金でご覧いただけます。
- ・主な前売券販売所 チケットぴあ、セブン-イレブン他

いわさきちひろと中谷泰について

いわさきちひろ（1918-1974）

1918年、福井県武生（現・越前市）に生まれ、東京で育つ。1936年、東京府立第六高等女学校卒業。絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年、紙芝居『お母さんの話』を出版、文部大臣賞受賞。同年、松本善明と結婚、翌年、長男猛を出産。絵本などの子ども本を中心に、新聞、雑誌、カレンダーなどさまざまな印刷メディアに絵を描いた。1974年、肝臓ガンのため55歳で亡くなる。

中谷泰（1909-1993）

1909年、三重県松阪市に生まれる。20歳のときに画家を志し上京、川端画学校に学び、1930年の第8回春陽会展で初入選。春陽会を通して出会った木村荘八に師事する。春陽会をはじめとする多くの展覧会に出品し、1971年から1977年にかけては東京藝術大学教授をつとめるなど、戦前から戦後にかけての洋画界で重要な役割を果たした。1993年84歳で亡くなる。

広報文

*紙面等作成時にご自由にお使いください。

広報文①(約100文字)

平和を願い、終生子どもの姿を描き続けた画家いわさきちひろ。にじみやぼかしの水彩技法を駆使して描かれたいわさきちひろの作品と、その師で三重県松阪市出身の画家、中谷泰の作品資料約170点を紹介します。

広報文②(約50文字)

絵本画家いわさきちひろと、その師で三重県松阪市出身の画家、中谷泰の交流を作品資料約170点により紹介。

展覧会のみどころ紹介

いつか見た、あの絵に会える

画家として出発する以前の貴重な油彩画・素描から、童画家として人気を博す時代の挿絵原画、絵本画家として才能を開花させて絵本の世界に新境地をもたらした後半期の絵本原画まで、ちひろの作品約 110 点と資料約 20 点を一堂に紹介します。

わすれられない、あの子のひとみ

ちひろが描く絵を最も特徴づけているのは、子どものモチーフでしょう。ちひろが生涯、子どもの姿を描き続けたのは、かけがえのない愛すべき存在だと考えていたからです。まっすぐにこちらを見つめる絵の中の子どもたちの姿には、ちひろの「世界中のこどもみんなに平和と しあわせを」という願いが込められています。

さらによく知るために

いわさきちひろの展覧会は、これまでも全国各地で開催されてきましたが、今回はちひろが若き日に絵を学んだ三重県松阪市出身の画家の中谷泰との交流に焦点をあてて展覧会を構成します。中谷泰との関わりという側面からちひろの活動を見ることにより、これまであまり知られてこなかった画家いわさきちひろ像に迫る、初めての試みとなります。

(中谷泰の油彩画・素描等約 40 点を紹介予定。)

きみにおくる、最高のなつやすみ

三重県立美術館では、企画展も高校生以下はいつでも無料でご観覧いただけます。多くの学校が夏休みに入る期間に開催される本展は、ふだんあまり美術館に足を運ぶことのない若い世代の方々のご来館も大歓迎です。ご家族連れ、お知り合い同士、もちろんおひとりでも、あらゆるの方々にお越しいただきやすい美術館をめざして、三重県立美術館はアクセシビリティの向上にも努めています。

ちかづいて、よく見て

水彩絵具を駆使し、にじみやぼかしを使った表現により、独特の色調を生み出したちひろ。また、水彩表現に加えて、線の美しさもちひろの絵の魅力のひとつです。大胆な線描や繊細な色の変化など、ちひろの絵は近づいて見るほどにその味わいも深みを増していきます。展示室で実物と向き合うとき、その美しさに息をのむことでしょう。

ひらかれていく世界

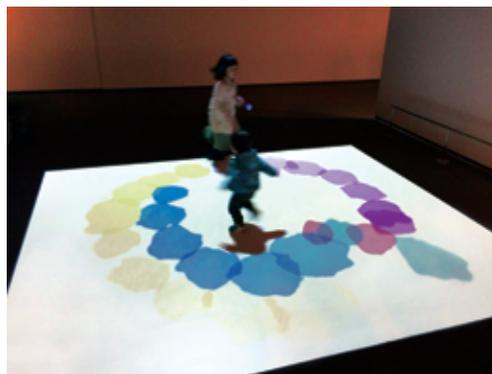
アートユニット plaplax (プラプラックス) が、いわさきちひろ作品とのコラボレーションにより制作したメディアアート作品を展示します。画用紙に見立てた白い床の上を鑑賞者が歩くと、足あとのように色のにじみが広がる《絵の具のあしあと》(2018年)と、スクリーンの前に立つと、その部分が映像内に白く浮かび上がって白抜きの技法が体験できる《絵のなかの子どもたち》(2018年)のふたつの作品を通して、ちひろの絵画世界を体感できます。

ろびー (ロビー) にもおたのしみ

展覧会公式図録には、出品作をカラーで掲載し、論考・資料等も充実した内容を収録(販売予定価格 2,000円 [税込])。このほか、いわさきちひろのオリジナルグッズなどをロビーの特設ショップにて販売します。



② いわさきちひろ 《ひまわりとあかちゃん》
1971年 ちひろ美術館蔵



③ plaplax 「絵の具のあしあと」 2018年
*ちひろ作品をメインに掲載してください。

会期中のイベント

手話通訳、要約筆記が必要な方は事前にご相談ください。

記念講演会「いわさきちひろ 母として 画家として」

講師 松本猛（ちひろ美術館常任顧問 横浜美術大学客員教授）

日時 7月30日 [土] 午後2時～ ＊約90分

会場 三重県立美術館地下1階講堂

定員 70名

参加無料／要事前申込（申込締切 7月18日 [月・祝]）

ちひろの水彩技法体験ワークショップ

「にじみでうちわをつくろう」

講師 原島恵（ちひろ美術館学芸員）[7月16日分]／三重県立美術館スタッフ [8月11日分]

日時 7月16日 [土] ①午前10時30分～ ②午後1時30分～

8月11日 [木・祝] ①午前10時30分～ ②午後1時30分～ ＊各回約60分

会場 三重県立美術館地下1階美術体験室

対象 小学生以上（小学生は保護者同伴で）

定員 各回10名程度

参加無料／要事前申込（申込締切 7月分は7月3日 [日] 必着、8月分は7月31日 [日] 必着）

映画上映会「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」

日時 7月24日 [日] ①午前10時30分～ ②午後2時～ ＊約90分

会場 三重県立美術館地下1階講堂

定員 各回70名

参加無料／要事前申込（申込締切 7月10日 [日]）

各イベントの申込方法

事前申込が必要です。下記いずれかの方法でお申込みください。申込多数の場合は抽選し、締切後に結果をお知らせします。

① 当館ウェブサイトの専用フォーム

② 往復はがき

往信用文面に参加を希望するイベント名と希望日時（ワークショップ／映画上映会）、参加者氏名（1枚につき2名まで）、当日連絡先（電話・メールアドレス）、返信用宛名面に住所と氏名を記入し、当館「ちひろ展イベント係」まで送付。

広報用画像のご提供について

本プレスリリース掲載の画像を広報用に提供します。

ご希望の方は、注意事項をお読みの上、下記連絡先に希望の画像番号をお知らせください。

Eメールにて画像をお送りいたします。

■掲載にあたってのお願い

- ・キャプション（作家名、作品名、制作年、所蔵者名）を画像と一緒に掲載してください。
- ・作品画像への文字のせ、画像トリミングはご遠慮ください。
- ・掲載物を1部、または紙面データを美術館にお送りください。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合はコピーガードをかけ、転載禁止の旨を明記してください。
- ・画像データの広報目的以外の使用はできません。
- ・ご使用後は、画像データを完全に削除してください。

■お問い合わせ

三重県立美術館

（企画・担当学芸員） 原舞子

（広報担当） 鈴村麻里子 坂本龍太

TEL 059-227-2100（代表）／FAX 059-223-0570

Eメール bijutsu2@pref.mie.lg.jp

〒514-0007 津市大谷町 11 番地

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

Follow us on Twitter @mie_kenbi



④ いわさきちひろ 《おつむてんてん》

1971年 ちひろ美術館蔵



⑤ いわさきちひろ 《指人形で遊ぶ子どもたち》

1966年 ちひろ美術館蔵